

高体連釧根支部予選 バド、ソフトテニス熱戦

高体連釧根支部予選は22日から25日にかけて、バドミントンやソフトテニスなどを行った。バドミントンの団体戦では男子の白糖が記録が残る1970年以降初優勝。女子は根室が2年ぶりに王者に返り咲いた。ソフトテニスの団体戦では釧路北陽が男女ともに制覇。同校がアベック優勝するのは、1988年以來35年ぶりとなった。(鈴木大聖)

白糖男子初V、根室女子2年ぶり制す

バドミントン

バドミントンは23～25日の3日間、ウインドヒルくしろスーパーアリーナで行われ、男女シングルスとダブルス、団体戦の6部門を実施した。このうち、団体戦は3単2複の3戦先勝方式のトーナメント戦で頂点を争った。

男子団体の白糖は第1シードで2回戦から登場すると、決勝までの3試合すべて総合成績3-0で勝ち上がる圧巻の強さを見せ、順当に勝ち上がった。

決勝は7連覇を目指す武修館と対峙(たいじ)。まず、第1ダブルスの渡部・對木一組が相手をストレートで撃破して流れをつくと、第2ダブルスの對木隼・對木慎の兄弟コンビも一進一退の接戦をものにして優勝に王手をかけた。第1シングルスは落としたものの、再度コートに立った主戦渡部が2-10、2-6と相手を寄せ付けずに勝利。総合成績3-1で王者となった。

女子団体の根室はノーシードなものの、初戦の釧路高専、続く釧路湖陵に総合成績3-0で勝利するなど、危なげない試合運びで、釧路南との決勝に駒を進めた。

はじめに第2ダブルスの高井・天神の1年生コンビが終始相手を圧倒し、ストレート勝ち。しかし、第1ダブルス、第1シングルスが連続で敗戦。窮地に立たされが、再度コートに立った第2シングルスの高井、第3シングルスの天神がまたも躍動。両選手とも常に先行する優位な状況で試合を展開、それぞれストレートで破り、総合成績3-2で栄冠を手にした。

このほか、男子の渡部竜士(白糖3年)、女子の高井夢己(根室1年)が、それぞれ単複を制し、3種目を制した。

男女単複上位4人と同団体戦上位3校は、6月13～16日に小樽市で開かれる全道大会に出場する。

「全道4強以上を」

〇…記録が残る1970年以降、男子団体戦で悲願の初優勝を成し遂げた白糖。現在、釧路の男子バドミントン界を引っ張る、主将の渡部竜士、對木一輝、齊藤永心ら3年生が入学した当時の部員数はわずか1人。大会にも参加していない「無名校」だったが、3人の入部で新たな風が吹き始め、最後の年で優勝という最高の結果を残した。

渡部主将は「去年は準優勝で悔しい思いをした。団体戦は個人戦よりも勝った時の達成感があるので、絶対に優勝したいと思っていた。めちゃくちゃうれしい」と満面の笑みを見せた。

全道大会に向けては「賞状が欲しいので、ベスト4以上が目標。あと1カ月頑張れば行ける」。初優勝を勢いに変え、強豪に挑む。



[写真/男子団体戦で初優勝を飾った白糖]